

椎間孔狭窄の診断における MRI の有効性に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026 年 7 月 23 日 ～ 2027 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 椎体終板の MRI 高信号領域の存在は、椎間孔狭窄を予測しうるか

〔研究目的〕 椎間孔狭窄の診断は難しく、見逃されることがあります。MRI で椎体終板(背骨の上下の端)に高信号領域を認める場合は、腰椎に不安定性が生じている可能性があり、そのことで椎間孔狭窄を生じている可能性があります。そこで、椎間孔狭窄を起こしている患者さんのうち、MRI で高信号領域を認める人の割合を調べ、他の検査方法と比較し、有効性を評価する予定です。

〔研究意義〕 MRI がどのくらい正確かわかれば、それを用いて正確な診断をすることができます。また、他の検査と組み合わせることで、より正確に診断をすることができれば、椎間孔狭窄を見逃されたり、まちがって手術をされたりする危険性が減ることが期待されます。

〔対象・研究方法〕 2020 年 4 月 1 日から 2023 年 7 月 31 日の期間に帝京大学ちば総合医療センター整形外科で L5/S 椎間孔狭窄が疑われ腰椎の手術をうけた患者様を対象としています。手術前に撮影した MRI のデータと、カルテから得られる情報を使用します。

〔研究機関名〕 帝京大学ちば総合医療センター整形外科

〔個人情報の取り扱い〕 研究に利用する情報は、患者様のデータ収集時に研究用 ID を付与し、個人情報を削除して、個人が特定されないように厳重に管理します。また研究終了後に電子化したデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センター(TARC)で 10 年間保管後廃棄します。研究成果は、学会や学術雑誌で発表する予定です。その際、個人が特定できるような情報が開示されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 重村知徳 職名 講師
所属: 帝京大学ちば総合医療センター 整形外科
住所: 千葉県市原市姉崎 3426-3
TEL: 0436-62-1211 (代表)